

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/1/22作成 榊新出光

## 【概況】 <原油相場もみ合いが続く>

●15日、中国メディアによると、年明け以降、河北省などで新型コロナの感染が再拡大しつつあり、北部を中心に都市封鎖を実施する地域が相次いでいます。他の主要国経済がコロナ禍で停滞する中、中国が世界のエネルギー需要をけん引してきただけに、需給均衡化への期待が後退。相場は朝方にかけて軟調に推移しました。一方、米国では、バイデン次期大統領が14日夕方1兆9,000億ドル規模の追加経済対策案を発表しましたが、足元では経済指標の悪化が目立っており、短期的な需要鈍化は避けられないとの見方から、相場は午前の段階で一時51.83ドルまで下落しました。

●19日、国際エネルギー機関(IEA)は19日、新型コロナウイルス感染再拡大で打撃を受けた原油需要がワクチン普及や政府による財政出動や金融政策により、今年後半に改善するとの見方を示しました。今年の石油市場の回復を慎重ながらも楽観しているとのバーキンド石油輸出国機構(OPEC)事務局長の発言も伝わったことを受けて投資家心理が改善し、相場は一時53.13ドルまで上昇しました。

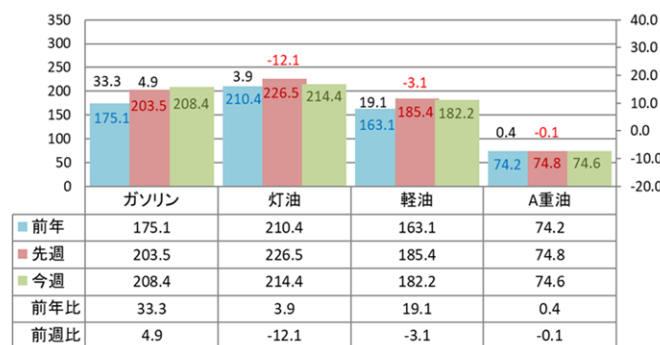
●20日、20日に就任するバイデン新大統領が掲げる大型経済対策で景気が底上げされるとの観測が広がる中、エネルギー需要に楽観的な見方が強まっており、原油が買われています。また、官民が発表する週間在庫統計で原油在庫の取り崩しが見込まれていることも、相場の支援材料となりました。

●21日、米石油協会(API)が20日に発表した週報で、15日までの1週間に国内原油在庫が260万バレル増と、市場予想に反する結果となったことが嫌気されました。また、ガソリンとディズチレートの在庫も予想ほどではなかったものの拡大したことから、新型コロナウイルス感染拡大の影響でエネルギー需要が鈍化しているとの懸念が再燃しています。ただ、バイデン新政権による米追加経済対策への期待を支えに主要株価指数の史上最高値更新が相次ぐ中、同じリスク資産である原油先物にも資金が流入し、翌22日の米エネルギー情報局(EIA)週報の内容を見極めたいとして様子見ムードが広がり、今週は週初が祝日休場だったほか、20日に米大統領就任式が行われたため、EIA週報の発表日時が22日とずれています。

1月22日 17:00現在 WTI原油 55.27ドル 為替 1ドル 103.68円

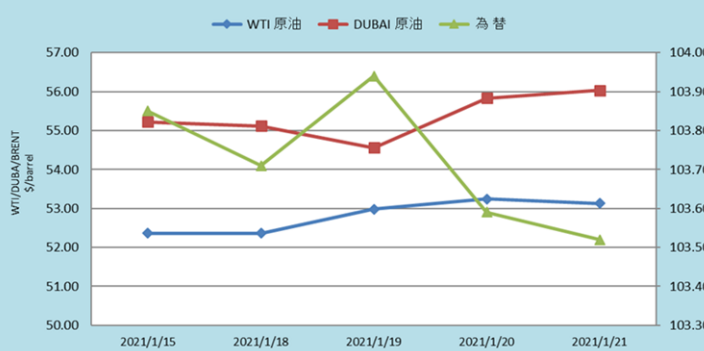
国内石油製品在庫 1月16日時点

単位:万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ

単位:円



## 次回元売変動予測

1/28~ 元売変動予測

ガソリン	→	±0~+0.5
灯油	→	±0~+0.5
軽油	→	±0~+0.5
A重油	→	±0~+0.5
LSA	→	±0~+0.5

※現段階の原油コストによる予想です

## 【製品卸価格】 <一斉に消化売り始まる>

◀今週▶ 今週の元売り仕切り改定はENEOS「+1.0円」、出光シェル「+0.5円」の値上げ改定となり元売り二社で改定幅が異なりました。二週分で元売りの改定のズレは調整された形です。ENEOSの改定が「+1.5」と予測していたディーラーが多く、上げ幅が予測よりも小幅だったために市況の上昇が抑えられる形となりました。また月間リンクの仕入れ玉の消化売りが本格的に始まり、反対に値下がりが目立つ油種も見受けられました。

◀1月23日以降▶ 来週の元売り改定は現状の原油コストで「±0~+0.5円」の予測です。1月28日以降の仕入れ価格に調整金が加味される可能性があり、原油コストに変動はありませんが、調整金の+0.5円で改定は+0.5円の値上げになる可能性があります。ただ、月間リンクの仕入れ玉を扱うディーラーは仕入れコストがほぼ見えてきているために、次回の改定幅に関わらず、販売していくと思われます。各社枠を後半に温存していましたが、予想以上の市況を受けて、採算度外視での販売を進めざるを得ず、さらに配送面で窮屈なエリアでは値崩れも一層酷くなっています。

## 【トピック】 <同業者市況>

先週末までの状況とは一転して、月間リンクの仕入れ玉が売りを強めてきています。今回1月21日~27日までの元売り仕切りが発表されたことにより、市況連動を利用した月間平均玉の仕入れ価格はおよそ固まってきました。その仕入れ玉を利用した販売では現在のラック価格よりも安い価格で販売することが可能と予測され、各地で枠消化を巡る販売合戦となっています。ディーラーによれば出荷できるのであれば、いくらでもいいとも言える価格で販売しており、出光興産の市中調達への販売価格として、ガソリン102.7円が提示されるなど、同業者市況において特に安値での取引となっています。現在の市況価格はおそらく月末まで続くと思われるのですが、週末分としてさらに安値提示が見受けられますので、月末に向けさらに市況が悪化していくと考えられます。また週末の23日~24日にかけて、千葉製油所では工事規制により全油種出荷ができません。千葉出荷を三愛八潮へ出荷ポイントを振り替えた影響なのかは不明ですが、三愛八潮でも出荷規制が入ってきています。市況の動向を左右する月間リンクの玉には今後も注視していく必要があると見られます。